

実習指導者育成WG

1. 実習指導者育成ワーキンググループ（以下、実習指導者育成WGとする）の概要について
平成26年度より教育委員会、教育WG、実習指導経験者、看護キャリアセンター等、教育に携わる機会が多い構成員で「実習指導者育成WG」がスタートし、今年度で12年目を迎えた。13名のWG構成員の活動を以下に報告する。

【実習指導者育成WG構成員】

職位	所属
看護師長（3名）	教育担当、南棟5階1病棟、南棟6階1病棟
副看護師長（5名）	北棟6階2病棟、北棟7階2病棟、北棟9階2病棟、教育担当、保健学科（人事交流）
看護職員（5名）	ウエストウイング1階、南棟8階1病棟、南棟10階、北棟8階2病棟、北棟11階2病棟

【目的】 臨地実習現場での実習指導の質を向上させる。

【目標】

- 1) 実習指導者研修会の企画・運営・評価を行い、効果的な指導ができる実習指導者を育成する。
- 2) 実習指導者会議の企画・運営・評価を行い、実習指導に伴う課題に対して具体的かつ実行可能な改善策の立案を支援する。
- 3) 実習指導要項の効果的な活用を促進することができる。
- 4) 看護学生への実習指導の質を担保することができる。

【役割】

- 1) 臨地実習指導者研修会（新任）の企画・運営・評価を行う。
- 2) 臨地実習指導者研修前後の受講者アンケートを実施、評価し、結果を次年度に活用する。
- 3) 実習指導者会議の企画・運営を行い、学生への教育的・効果的指導の在り方や実習指導体制の課題、実習指導要項の活用状況等を評価する。
- 4) 看護学生の実習に関するアンケートを実施、評価する。
- 5) 「看護実践力プロッサム継続プロジェクト事業」の報告書を作成する。

【活動内容】

臨地実習指導者研修では、年間計画（下表参照）をもとに、実習指導者育成WG構成員が運営担当となり、研修内容の検討、司会進行や運営、参加者のアンケート集計をもとに、研修評価を行った。

実習指導者会議では、議題内容や検討テーマの企画、看護学生を対象とした実習指導に関するアンケート調査をもとに、実習指導の評価を行った。

WG会議では、各担当者からの活動報告と臨地実習指導者研修会や実習指導者会議での検討事項について意見交換を行った。また、実習指導者の1年間の振り返りや看護学生のアンケート結果をもとにした次年度の計画など、実習指導者育成に実習指導者育成WG構成員が幅広く携わった。

【令和7年度 実習指導者育成WG年間活動計画】

月	4月	5月	6月	7月	(8月)	9月	10月	11月	12月	(1月)	2月	3月
第2月	日	12	9	14	(18)	8	6	17	8	(19)	9	9
実習指導者育成WG		第1回会議・研修会の内容検討	第2回会議・研修会の内容検討	第3・4回会議・研修会の内容検討		第3・4回会議・研修会の内容検討・運営評価 キャリアセンターセミナー役割分担	実習指導体制の課題抽出 キャリアセンターセミナー準備	実習指導体制の課題抽出・改善点検討 キャリアセンターセミナー準備	第5回会議・研修会のキャリアセンター報告書役割分担		第5回会議・研修会の内容検討・運営評価 研修会評価(全体) 次年度研修会企画	WG活動評価 会議・指導要項評価 学生アンケート評価
第4全	25			25		26	24	28			27	
実習指導者会議	運営・評価 今年度の活動計画			福岡看護大学 実習指導者連絡会		運営・評価 実習指導に関する情報共有 学生アンケート集計	学生の状況や実習情報共有	事例検討(案)	福岡女学院看護大学 実習指導者会		運営・評価 会議の目標評価と一年間の振り返り	
5回/年			2	2		11	17			29		
実習指導者研修会			運営・評価 看護基礎教育課程 実習指導の原理	看護学生の動向 看護過程		カンファレンスの指導方法・事例検討	実習指導の実際 事例検討			運営・評価 まとめ		
2回/年			WEB 評価	WEB								
アドバンスコース 実習指導者研修			看護基礎教育課程 実習指導の原理	看護学生の動向 看護過程								

2. 実習指導者育成WGの開催

開催回数	日時	主な議題
第1回	令和7年 5月12日	令和7年度実習指導者育成WGの目標と年間活動計画について 令和7年度実習指導者会議の目標と年間活動計画について
第2回	6月9日	第2回実習指導者会議について 第2回臨地実習指導者研修会について
第3回	7月14日	第3回実習指導者会議について 第3回臨地実習指導者研修会について
第4回	9月8日	第3回実習指導者会議について 第4回臨地実習指導者研修会について 令和7年度キャリアセンターセミナーについて
第5回	10月6日	第4回実習指導者会議について 令和7年度キャリアセンターセミナーについて
第6回	11月17日	第4回実習指導者会議について 第5回臨地実習指導者研修会について 令和7年度キャリアセンターセミナーについて
第7回	12月8日	第5回実習指導者会議について 令和7年度キャリアセンター報告書について
第8回	令和8年 2月9日	第5回実習指導者会議について 令和7年度キャリアセンター報告書について 令和8年度臨地実習指導者研修会について
第9回	3月9日	第20期生「看護基本技術」到達度自己評価報告 臨地実習指導者研修受講者アンケート結果について 看護学生を対象としたアンケート調査結果について

3. 臨地実習指導者育成プログラム

令和7年度実施状況

1) 臨地実習指導者研修

新たに臨地実習指導者となる看護職員を対象に、九州大学医学研究院の教員と協同で臨地実習指導者研修を開催した。

(1) 目的

- ①看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるよう必要な知識を習得する
- ②自己の看護観の再構築と実習指導者像の形成を目指す

(2) 対象

令和7年度新任臨地実習指導者 60名

【令和7年度 臨地実習指導者研修スケジュール】

回次	月 日	講師	テーマ	目標	内容	会 場
1	6月2日 10:30～ 12:00	実習指導者育成WG	ガイダンス (10分)	1. 実習指導者研修会の目的、目標、意義を述べることができる	・実習計画の確認 ・研修会(全5回)の流れについて	第2薬局棟2階 大会議室A-B
		九州大学医学研究院 保健学部看護学分野 教授	看護基礎教育課程 実習指導の原理 (80分)	1. 実習指導者研修会の目的、目標、意義を述べるができる。 2. 看護師の教育課程について、その概要を指定規則・指導要領の視点から学び、実習指導につなげる。 ※初年度実習指導者(アドバンス)も含む	・看護教育課程(指定規則、指導要領、手引きなど) ・看護基礎教育(教育計画とその内容) ・実習指導の原理	
2	7月2日 13:30～ 15:00	九州大学医学研究院 保健学部看護学分野 教授	看護学生の動向 看護過程 (90分)	1. 看護過程の基礎的知識を振り返り、看護過程の各段階における指導のポイントを述べることができる。 ※初年度実習指導者(アドバンス)も含む	・看護過程の基礎 ・看護過程各段階における指導のポイント	第2薬局棟2階 大会議室A-B
3	9月11日 13:00～ 15:00	九州大学医学研究院 保健学部看護学分野 講師	カンファレンスの 指導方法 (60分)	1. 自発的な学習を促すための動機づけ理論について学び、学習意欲を向上させるような関わり方を考えることができる。 2. カンファレンスの意義と方法について理解した内容を言語化できる。 3. 学生カンファレンスにおける適切な指導・助言について考えることができる。	・カンファレンスの指導方法 ・動機づけ ・コーチング ・リフレクション	中央会議棟 多目的会議室 A-C
		実習指導者育成WG	事例検討 (60分)	1. 事例検討を行い、多角的視点から問題点を分析できる。 2. 学生指導の多様なアプローチを見出し、他者と共有できる。	・実習指導を実践していく上で困難な点や課題と思う事例を上げ解決の糸口を探る ・意見交換(グループワーク)	
4	10月17日 13:00～ 15:00	九州大学医学部 保健学科への人事交流者 (実習指導者育成WG)	実習指導の実際 (60分)	1. 人事交流者の話を聞き、実習指導者として実習指導に対する自己の考えを構築する。 2. 看護過程や学生カンファレンスの効果的な指導について考えることができる。	・実習指導者像をどう考えるか ・実習指導の実際 ・学生へのハラスメント	中央会議棟 多目的会議室 A-C
		実習指導者育成WG	事例検討 (60分)	1. 事例検討を行い、多角的視点から問題点を分析できる。 2. 学生指導の多様なアプローチを見出し、他者と共有できる。	・実習指導を実践していく上で困難な点や課題と思う事例を上げ解決の糸口を探る ・意見交換(グループワーク)	
5	令和8年 1月29日 13:00～ 14:00	実習指導者育成WG	まとめ (60分)	1. グループ討議を通して、自己の成長した点、今後の課題を言語化できる。	・実習指導についての総括 ・今後の課題、役割について検討する (グループワーク)	中央会議棟 多目的会議室 A-C

令和7年度は、全5回の開催とし、各回の研修時期が臨地実習のスケジュールとリンクするようにすることで、各回での研修で学んだことを実際の指導場面で実践できるよう工夫した。

2) 臨地実習指導者研修（アドバンスコース）

看護実践において人材育成の柱となるべき中堅看護師の人材活用を積極的に図るため、平成 29 年度より臨地実習指導者研修アドバンスコースを開催し、今年度で 9 年目を迎えた。実際に指導を経験した中堅看護師との情報共有において、看護実践力や臨床教育力の向上だけでなく、現状に則した部署における課題や指導体制の見直しといった看護管理力の視点を養うことにつながる。

(1) 目的

看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を再認識し、実習指導に活かす

(2) 対象者

条件を満たし推薦を受けた看護職員 24 名

【令和 7 年度 臨地実習指導者研修（アドバンスコース）スケジュール】

回数	月 日	講 師	テーマ	目 標	内 容	開催方法
1	6月	実習指導者育成WG	ガイダンス (10分)	1. 実習指導者研修会の目的、目標、意義を述べる ことができる。	・実習計画の確認 ・研修会（全2回）の流れについて	WEB
		九州大学医学研究院 保健学部門看護学分野 教授	看護基礎教育課程 実習指導の原理 (80分)	1. 実習指導者研修会の目的、目標、意義を 述べるができる。 2. 看護師の教育課程について、その概要を 指定規則・指導要領の視点から学び、 実習指導につなげる。	・看護教育課程（指定規則、指導要領、 手引きなど） ・看護基礎教育（教育計画とその内容） ・実習指導の原理	
2	7月	九州大学医学研究院 保健学部門看護学分野 教授	看護学生の動向 看護過程 (90分)	1. 現在の看護学生の動向を知り、実習指導に 活かすための学びを深める。 2. 看護過程の基礎的知識を振り返り、基礎 看護学実習における看護過程の指導の ポイントを述べるができる	・看護過程の基礎 ・看護過程各段階における指導のポイント	WEB

令和 7 年度は、全 2 回の研修とし、アドバンスコースでは基礎看護学実習におけるポイントを押さえる視点に焦点をあてた目標を設定した。

令和7年度成果

1) 臨地実習指導者研修

研修の評価として、例年と同様に、研修会の運営や実施体制、実習指導に関する認識と知識の変化、教師効力尺度について研修前後でアンケート調査し比較した。

(1) アンケート調査結果

①分析対象者：研修受講者 60名 看護職平均経験年数：7.0±2.8年

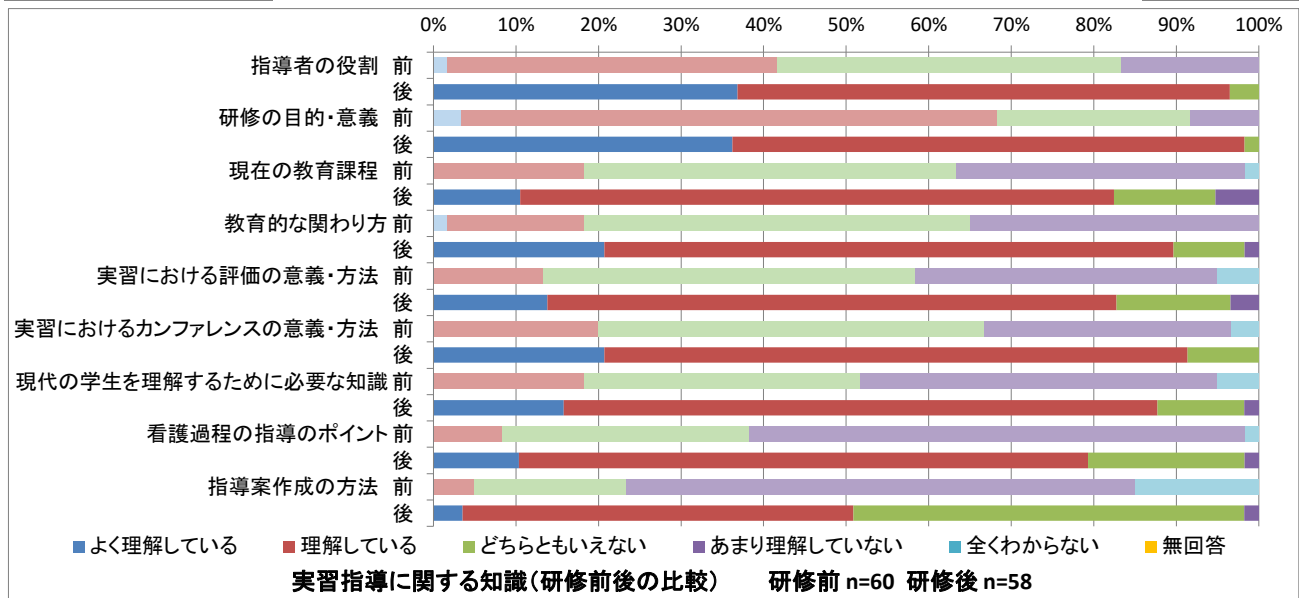
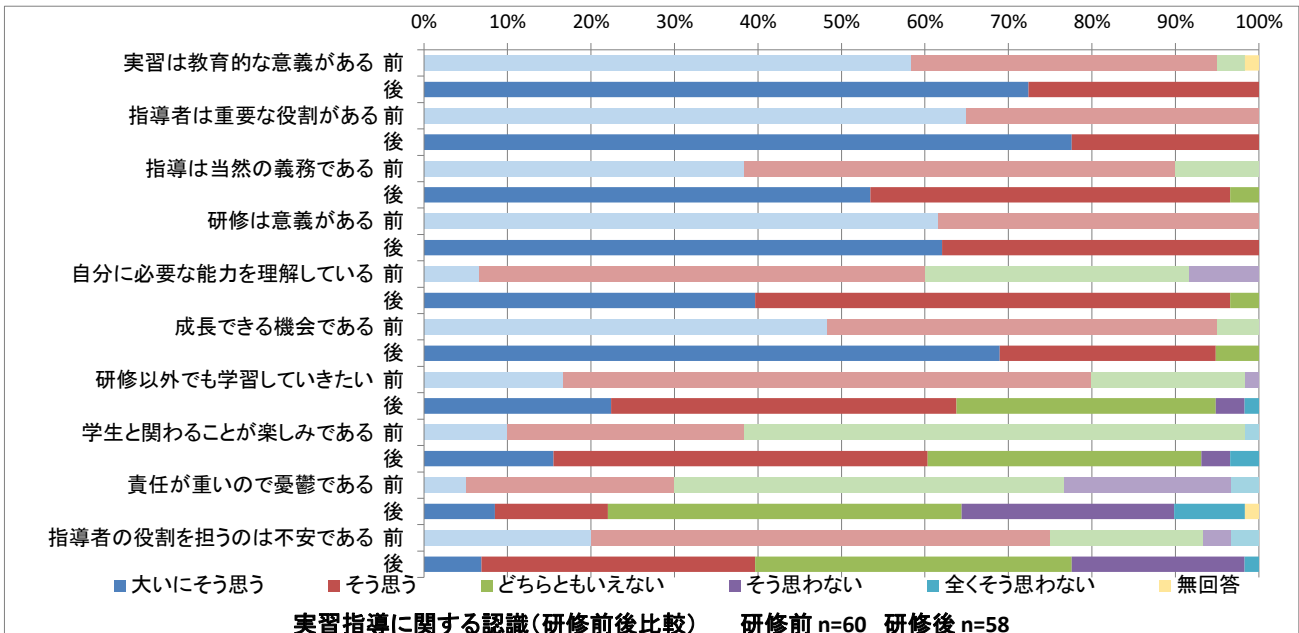
研修受講前 60名 研修受講後 58名

②調査時期：研修開始前（令和7年6月） 研修修了後（令和8年1月）

③アンケート結果 研修前（n=60 回収率：100%） 研修後（n=58 回収率：100%）

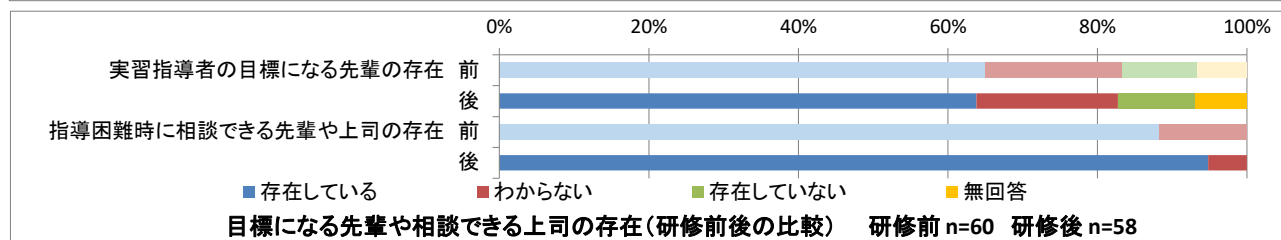
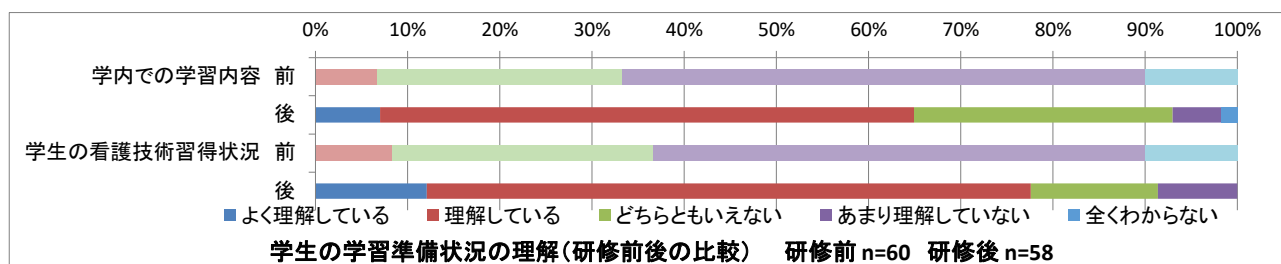
【実習指導に関する認識と知識】

実習指導に関する気持ちや考えの面では、多くの項目において肯定的回答が大幅に増加し、「不安」「憂鬱」の項目は減少した。また、実習指導の理解の面では、すべての項目で肯定的回答が増加した。研修により実習指導の意義や自身の役割を再認識し、意欲的に実習指導に取り組む意識を高める機会となったと推察される。



【学生の学習準備状況の理解、実習指導者のサポート体制】

学生の準備状況の理解の面では、「学習内容」や「看護技術習得状況」のいずれも肯定的回答が増加しており、学生の背景や準備状況について理解が深まったと考える。



【臨地実習に対する教師効力尺度得点】

臨地実習における学生の学習にどの程度効果的な影響を及ぼすことができるかという信念に関する変化をみるために、「臨地実習に対する教師効力尺度(坪井ら、2001)」を用い、研修前後における比較を行った。すべての項目において、研修後の得点が上昇した。

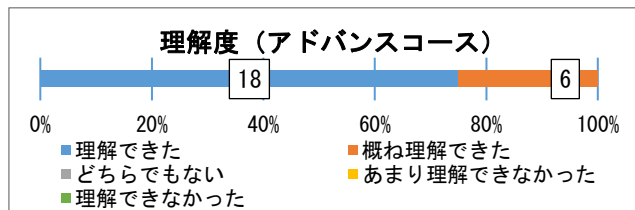
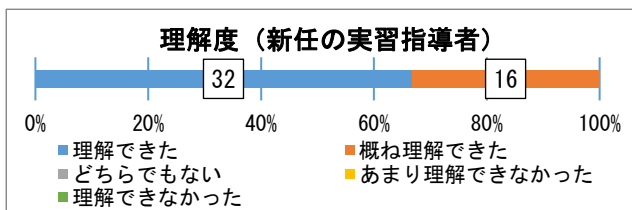
研修や実習指導経験を通して、学生の理解度や到達度を意識した実習指導の実践に対する自己効力感の向上につながったと考える。

	R7 研修前 n=60	研修後 n=58
	平均値	±標準偏差
【総合得点】		
研修前	74.5	10.4
研修後	90.2	10.2
【カンファレンスを実施できる自信】		
研修前	12.3	2.4
研修後	15.4	3.2
【看護実践能力を活用できる自信】		
研修前	11.5	1.9
研修後	13.1	1.6
【学習者として学生を尊重する自信】		
研修前	15.4	2.1
研修後	17.2	2.1
【学びを深めるために技法を活用できる自信】		
研修前	10.2	2.0
研修後	12.7	2.0
【実習教育の準備ができる自信】		
研修前	10.6	1.9
研修後	13.0	1.6
【学生の状況を判断できる自信】		
研修前	7.3	1.4
研修後	9.4	1.5
【学生の学びを促進できる自信】		
研修前	7.2	1.6
研修後	9.4	1.5

【第1回臨地実習指導者研修】



第1回研修会は、まず臨地実習指導者研修の目的や実習指導者の役割をガイダンスで伝え、研修の意味づけを行った。次に看護教育課程、看護基礎教育、実習指導の原理について、また現代の学生の特徴などを踏まえ、学生との関わり方や指導方法について講義が行われた。新任の臨地実習指導者は臨地実習の位置付けや実習指導者の役割、実習指導が自己の成長へと繋がる機会であることを学んだ。アドバンスコースは実習指導者の役割を再認識し、新任の実習指導者を支援しながら、効果的な実習指導を行うために病棟全体で実習指導体制を整える必要があることを学んだ。



第1回 臨地実習指導者研修の学びや活用（一部抜粋）

新規臨地実習指導者

看護教育過程、現在の学生の特徴、実習指導者としての役割について学ぶことができた。実習指導者の経験を通して自分自身も成長する機会にしたい。

初めての实習指導者で不安でしたが、実習指導者の役割について学ぶことができたので、今後実際に実習指導を行う際に役立てたい。

アドバンスコース

実習指導者としての心得や看護教育過程を学び、学生のロールモデルになることが重要だという内容が心に響いた。看護に関心を深められるような実習指導ができるようにしたい。

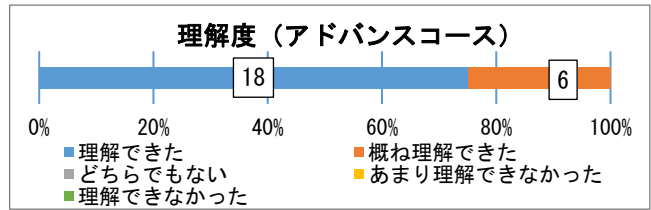
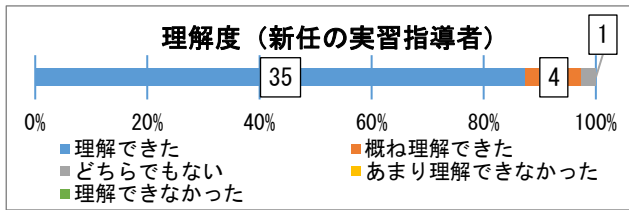
自分が学生の時の臨地実習とは、状況や環境も変化していることを学ぶことができた。限られた時間の中で、実習指導者として真摯に学生に向き合っていきたい。

現在の看護基礎教育課程やその中での臨地実習の位置づけ、看護学実習ガイドラインについて学び、学生の特性を踏まえた指導の重要性やロールモデルとしての役割について理解を深める研修となった。

【第2回 臨地実習指導者研修】



第2回研修会では、看護過程の各段階における指導のポイントや、Z世代の学生の特性を踏まえた臨地実習の指導について講義が行われた。新任の臨地実習指導者は看護過程の各段階における実習指導者の役割や学生一人ひとりに合わせた指導の方法について考えることができた。アドバンスコースは看護過程の指導のポイントについて再認識したり、Z世代の特徴を踏まえた具体的なアプローチの方法を考えることができた。



第2回 臨地実習指導者研修の学びや活用（一部抜粋）

新規臨地実習指導者

看護過程のそれぞれの段階での学生をつまづきやすいポイント、学生の特徴などを理解した上で、実習指導を行いたい。

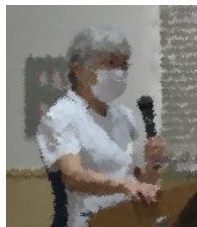
自分が学生の時には考えてもいなかった AIなどを駆使して調べ物をしたり、コロナ禍で学生時代を過ごしているという環境の違いを知ることができた。色々な考え方や関わり方がある中で、学生の背景も考えながら指導できるようにしたい。

アドバンスコース

臨地実習が看護教育の中で中核となり、学生の今後の看護観の育成においても基盤となる重要な機会であることを再認識できた。より有意義な実習となるよう、病棟スタッフとともに協力し、技術の実践、看護過程の展開を支援していきたい。

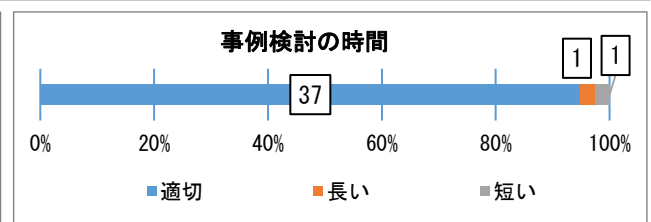
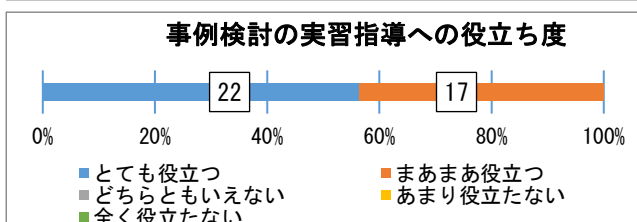
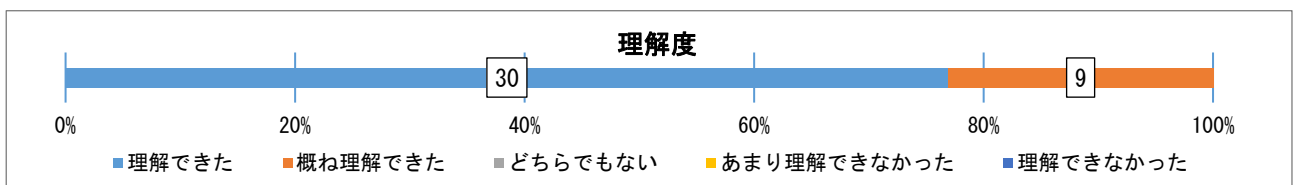
現代の看護学生の特徴や看護過程の各段階における指導について学ぶとともに、学生の個別性を踏まえた指導の重要性や、部署全体で看護学生が安心して学べる環境作りを行う必要性について再認識する機会となる研修となった。

【第3回 臨地実習指導者研修】



第3回研修会では、看護学生の特徴や臨地実習でのカンファレンスの指導方法、コーチングについての講義が行われた。現在の看護学生の特徴を踏まえ、学生の学習意欲を向上させるための理論や関わり方を学ぶ機会となった。

事例検討では「多角的視点から問題点を分析できる」「学生指導の多様なアプローチを見出し、他者と共有できる」を目標に、コミュニケーションが困難な事例、自分のペースで患者に質問してしまう事例の2事例を提示し、実習指導者としてどう関わっていくべきかグループワークを行い発表した。



第3回 臨地実習指導者研修の学びや活用（一部抜粋）

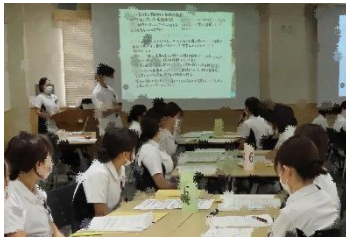
リフレクションやコーチングなどのスキルを使って学生の主体的な学びや看護実践への応用につなげていきたい。

学生を受け入れている患者が安楽に入院生活を送ることができるように援助することも指導者として配慮すべきことであると改めて感じた。

実際に起こりうる場面を想定しての問題解決方法について、他のスタッフの意見が聞けて参考になった。

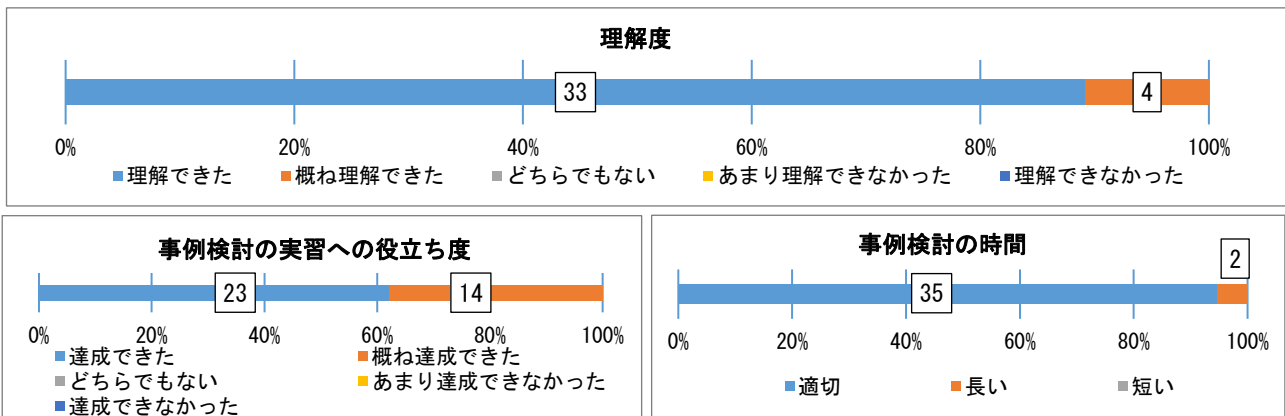
実習指導に活かせるリフレクションやコーチングの技術への理解を深め、具体的な活用方法を考える機会となった。事例検討を通して、患者・学生・指導者それぞれの立場から分析し、多様な意見交換を行うことで、実践に活用できる具体的な声かけや関わり方を考える機会となる研修となった。

【第4回 臨地実習指導者研修】



第4回研修会は、人事交流経験者より「人事交流の活動を通して」「実習指導者の役割」「実習指導の実際」という内容で行われた。実際の声かけや指導場面を聞くことができ、具体的に知りたいという受講者の要望に応える内容であった。

事例検討では、消極的な学生の事例や教員と実習指導者の指導方針が異なる場合の事例を通して、患者、学生、臨地実習指導者のそれぞれの立場で問題を分析し、指導方法についてグループで検討した。実際の指導経験などもふまえ、他部署との情報共有を行うことができていた。



第4回 臨地実習指導者研修の学びや活用（一部抜粋）

事例検討を通して、自分だけでは気づくことのできなかった問題点の分析方法や視点を学ぶことができたので、今後の実習指導に役立てたい。

学生個人の特性を理解したうえで接していくことが大切だと思った。学生が主体的に実習に臨めるように支援していきたい。

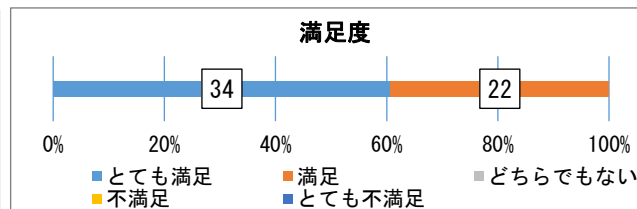
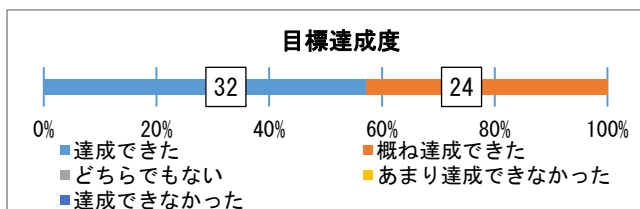
実習指導者だけでなく部署全体で支援できる体制作りも必要と改めて感じた。

人事交流経験者による講義と事例検討を通して、学生の特性や指導上の課題を多面的に捉え、具体的な実習指導の関わり方を学ぶことができた。グループワークで多様な意見を共有でき、教員や指導者間の連携、部署の実習指導体制作りへの意識を高める機会となる研修となった。

【第5回 臨地実習指導者研修】



実習指導者として「役割を發揮できた事例・困難だった事例を事前学習とし、グループワークで共有した上で、「実習指導者として成長したところ」「なりたい実習指導者になるための今後の課題や抱負」について話し合い、各部署での出来事や工夫しているところをまとめ、全体発表を行った。今後の指導方針や部署で取り組む必要がある課題を見出すことができていた。それに加えて、今年度の学生アンケートの結果から、学生の思いや感謝の言葉を抽出して提示し、実習指導者のモチベーションが上がるように工夫した。



第5回 実習指導者研修会の学びや感想（一部抜粋）

グループワークや全体の発表を聞いて、指導者として成長をあまり感じていなかったが、指導する上で根拠となるものを学習しなおしたり、基礎を振り返ったりしたことも指導者としての役割であり、自分の成長した部分であることが分かった。

学生さんを通して、1人の患者さんをより深く考える機会に繋がったので、あらためて看護のすばらしさを感じることができた。

実習指導者としての役割や実践を振り返り、成長したところや課題を共有することができ、学生の個性に応じた関わりや部署全体で支える実習指導体制の重要性を再認識する機会となる研修となった。

【まとめ】

全5回の研修を通して、看護基礎教育における実習の位置付けや実習指導者としての役割、学生の背景などの基礎知識に加え、指導の際の視点、関わり方などの具体的な手法について理解を深めることができた。さらに、実習の進度に合わせた事例検討とグループでの共有により、実践に結びつけやすい研修となった。また、教員や部署スタッフと連携して学生指導を行う重要性への認識が高まり、部署全体で学生を支援する意識の向上に繋がったと考える。

4. 実習指導体制の整備・強化

令和7年度実施状況

各部署の実習指導の代表者が情報共有や研鑽をし、指導者役割の資質向上を図ることを目的に、令和7年度実習指導者会議を開催した。会議では効果的な実習の在り方を検討し、実習の受け入れ準備として、保健学科の教員との情報共有、実習指導者同士の情報交換を通して、指導体制や指導内容の充実を図った。

1) 実習指導者会議

(1) 目的：実習内容及び実習指導に関する事項を検討し、併せて実習指導者の資質向上を図る。

(2) 目標

- ① 学生への教育的・効果的指導のあり方を検討し、実習指導に活用することができる。
- ② 実習指導に関わる課題を抽出し、対応策を実施することができる。
- ③ 実習指導要項の活用を促進することができる。

【令和7年度 実習指導者会議スケジュール】

回	1		2	3	4		5
日程	4/25(金)	7/25(金)	9/26(金)	10/24(金)	11/27(木)	12月	2/27(金)
会議内容	・ 令和7年度学生アンケートについて ・ 2024年度保健学科活動計画について ・ 年間目標および活動計画について	福岡看護大学 実習指導者連絡会	・ 実習指導に関する情報共有	・ 学生の状況や実習についての情報共有	・ 部署での取り組みに関する情報共有	福岡女学院看護大学 実習指導者連絡会	・ 会議目標の評価と振り返り

実習指導者会議では、例年実習が始まる前にそれぞれの大学教員による学生の学習状況や実習前の準備状況等に関する情報提供があり、各部署での実習指導体制や指導方法等の具体的な情報共有を計画し、実習受け入れの準備を行っている。

令和7年度成果

実習指導の質の維持・向上を図るため、看護基礎教育を担う保健学科と臨床現場である看護部が協働で、実習指導体制の整備・強化を行った。その成果として、実習指導体制の構築、看護学生による臨地実習の評価について考察する。

1) 実習指導体制の構築

(1) 議題の検討

① 議題「臨地実習指導」について（第2回会議）

講師：九州大学大学院医学研究院 保健学部門看護学専攻講師

学生の特徴や教育の背景、看護過程の展開における指導のポイント、教員と実習指導者の連携について情報提供があった。

②議題「部署の実習指導体制における現状と課題、対応策について」（第3回会議）

同じ実習領域または関連する実習領域で情報共有や意見交換を行った。

全体として、「部署内のスタッフ間の連携がとれていない」「実習指導要項の活用ができていない」「受け持ち患者の選定に難渋している」という問題点はどの領域でも共通して挙げられた。対応策として、「引継ぎ用のノートやテンプレート、チェックリストを活用し、指導者間での情報共有を行う」「実習の目的・目標、実習指導要項の内容を朝礼などで伝達する」「部署スタッフや医師と連携し、患者の候補を選定する」などの意見が挙がった。

③議題「部署における実習指導体制の共有」について（第4回会議）

南棟6階1病棟、北棟9階2病棟、北棟11階2病棟より実践報告があった。実習指導者や部署スタッフ間での情報共有や教員との連携に関する具体的な方法について情報提供があった。

(2) 看護学生による臨床実習の評価

九州大学医学部保健学科、福岡女学院看護大学、福岡看護大学、第一薬科大学の看護学生を対象に質問紙調査を実施した。調査内容は、実習指導を受け入れる部署の雰囲気や看護学生と実習指導者およびそれ以外の職員との関わり等に関する12項目と、実習指導者と教員の連携について、「非常にあてはまる」～「全くあてはまらない」「該当なし」の4～5件法で評価を行った上、感想等を自由記述で記載するものである。

対象となる看護学生には、調査の目的、無記名による調査であり匿名性が確保されること、記載の内容は実習の評価とは全く関係がないこと等について実習指導者より説明を行い、記載内容が直接指導者の目に触れないように返信用封筒に入れて所定の回収袋で投函するという方法で各領域の臨地実習最終日に調査を実施した。以下に、今年度の結果を示す。

【結果】

調査対象者：九州大学医学部保健学科3年生、福岡女学院看護大学3年生、福岡看護大学3年生
第一薬科大学3年生

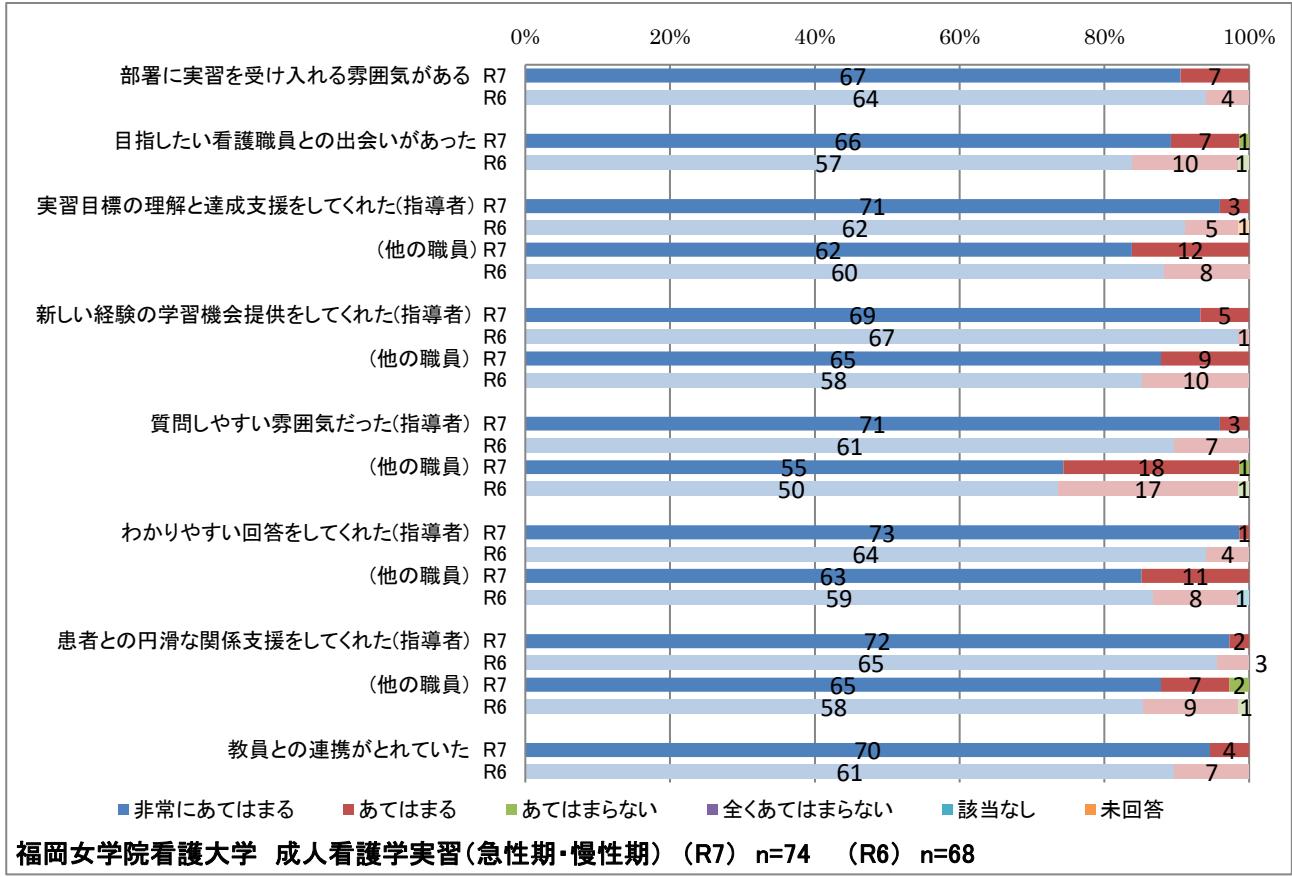
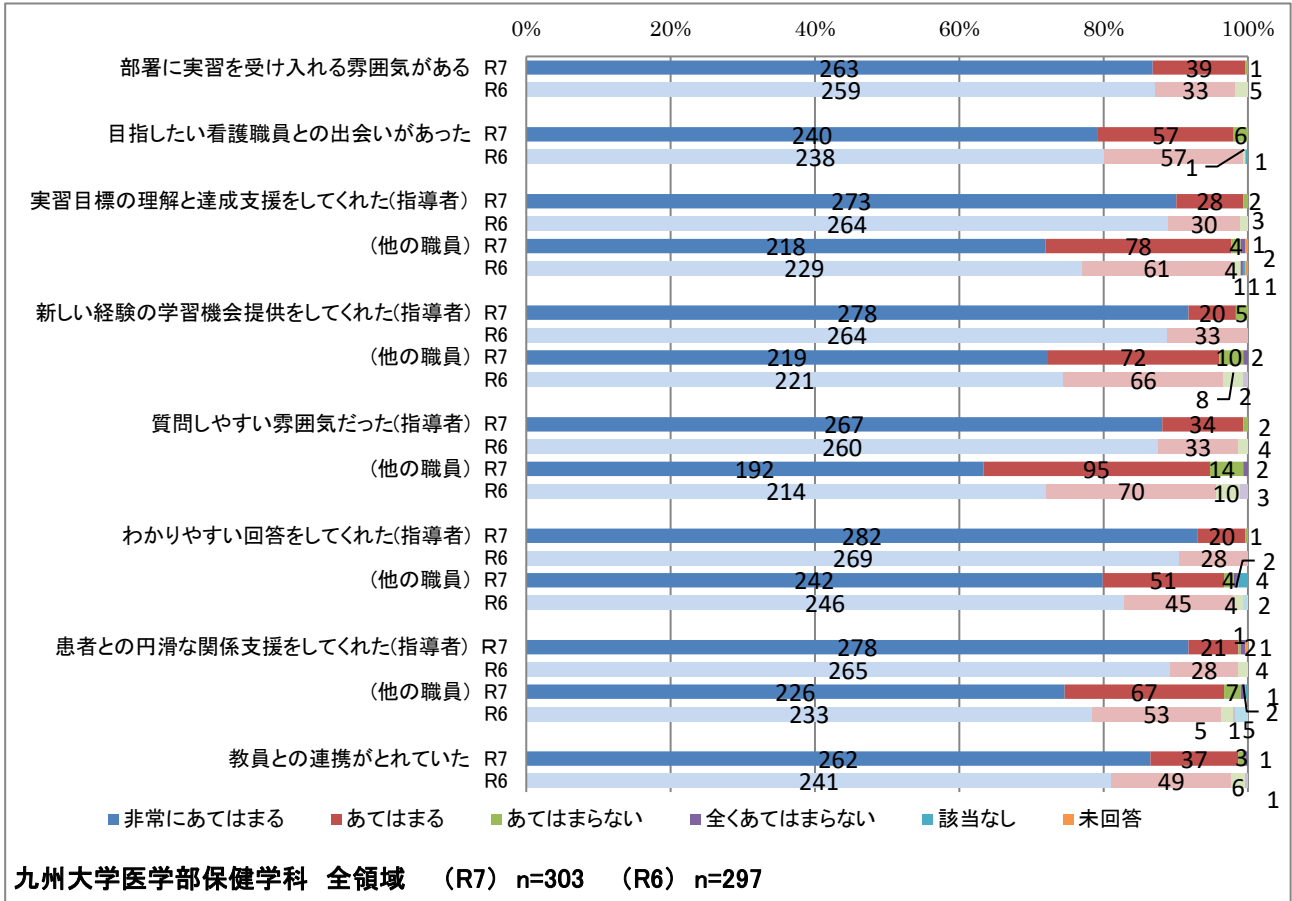
実習領域：精神看護学、小児看護学、母性看護学、成人看護学（成人慢性看護学、成人急性看護学、成人看護学統合）の領域で実習する看護学生

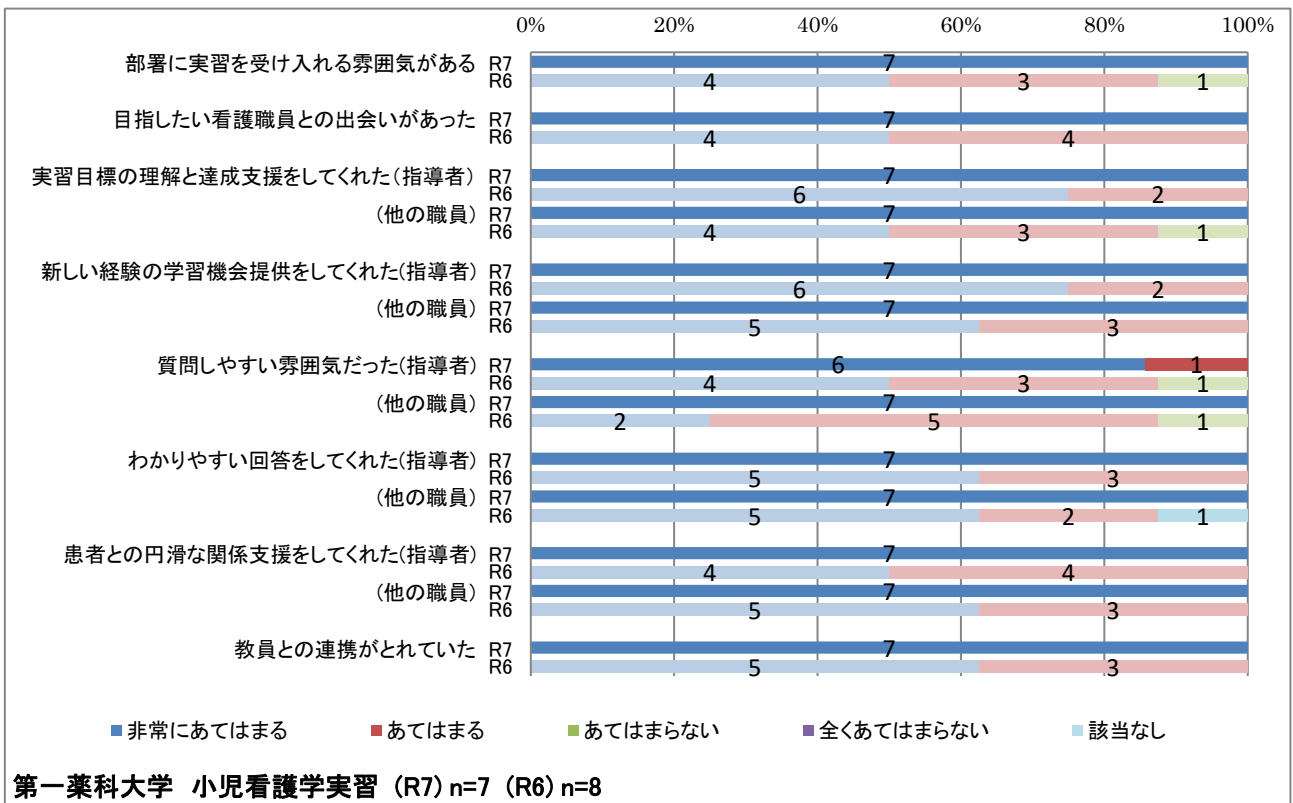
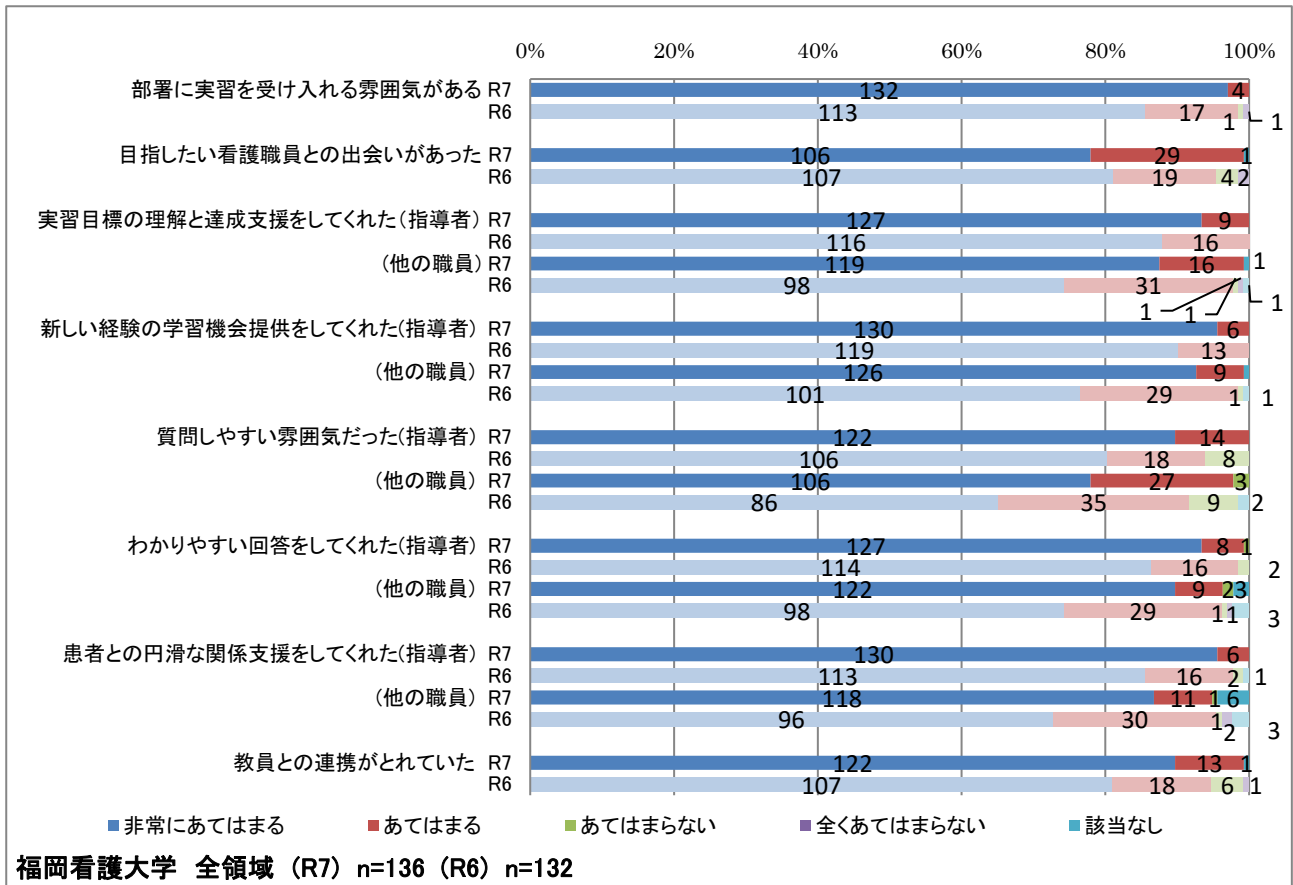
調査期間：令和7年9月1日～令和8年1月31日の実習期間

回収数：九州大学医学部保健学科3年生	303名	(回収率 90.7%)
福岡女学院看護大学3年生	74名	(回収率 86.0%)
福岡看護大学3年生	136名	(回収率 97.1%)
第一薬科大学	7名	(回収率 87.5%)

各大学の全領域の結果、すべての項目において「非常にあてはまる」「あてはまる」の割合が90%以上であった。自由記載においても、ケアや処置の見学・実施機会の確保や、看護計画・看護記録への助言など、学習を支える関わりに対する肯定的な意見が多くあり、当院における臨地実習は学生にとって概ね良好な実習環境として認識されていると考える。また、教員との連携においても、前年度と比較して増加していた。これは、実習指導者会議の実践報告で教員との連携に関する事例を共有したことや、実習指導者研修の講義・事例検討を通して、現代の学生の特徴を踏まえた指導には、教員との連携が重要であることを指導者が理解し、現場での実践に活かしていることが要因として考えられる。一方で、「質問しやすい雰囲気」「わかりやすい回答」などは前年度と同様に、

実習指導者と他の職員との間に差があるため、他の職員を巻き込んだ実習指導の実践を進め、部署全体で学生を支援する体制を整えることが重要である。





アンケート自由記載(一部抜粋)

九州大学医学部保健学科 (成人急性看護学実習)

質問に対して丁寧に説明してくださり、看護問題、看護計画、指導案立案時も沢山助言をいただきました。自分の課題をたくさん見つけることができ、大変深い学びのある実習になりました。

アンケート自由記載(一部抜粋)

九州大学医学部保健学科 (精神看護学実習)

患者とのコミュニケーションにおいて、疑問や困ったことがあった時に分かりやすく助言をいただきました。治療における看護師の役割の根拠を学ぶことができ、看護過程で学生としてできることを考えることができました。

福岡女学院看護大学 (急性期看護学実習)

記録物や看護問題などの相談にもこまかく対応してくださり、学生からの意見も1つの意見として取り入れてくださり、とても有意義な実習になりました。また、指導者の方が他職種に質問する機会も作ってくださったので、より専門的かつ多角的な視点を持つこともできました。

福岡女学院看護大学 (慢性期看護学実習)

学生へのフォローがとても手厚く、沢山の学びを得ることができ、とても嬉しかったです。病棟も患者第一で寄り添って業務に当たる姿は本当に素敵で、将来に向けての良い目標となる姿をたくさん見ることができ、本当に良かったです。

福岡看護大学 (母性看護学実習)

どんなことを学びたいか、何をしたいかなど、目的を持って行動するように促していただきました。どの方も質問しやすく、わからないことがあれば答えてくださり、充実した実習期間でした。どんな思いで働いているかなども聞くことができ、貴重な時間となりました。指導者の方にはとても熱心にいろいろ学べる機会を作っていただき、命をはぐくむ場所での助産師の姿を見ることができ感動しました。

第一薬科大学 (小児看護学実習)

指導者や毎日の受け持ち看護師の他、この病棟にいらっしゃる方々が大変親身になって教えてくださいました。処置をたくさん見学させていただき、多くの学びがありました。

広報活動

看護キャリアセンターホームページで、実習指導者育成WGの活動報告を行った。



今後の展望

「臨地実習現場での実習指導の質を向上させる」ことを目的に、「看護キャリアセンター」「看護部教育委員会」「教育WG」「実習指導経験者」など、様々な教育経験を持つスタッフで活動を行った。

より効果的で効率的な実習指導者の育成を目指し、WG内で研修内容について検討を重ねた。臨地実習の場において学生のコミュニケーションに関する課題が明らかとなり、講義や事例検討を研修へ取り入れた。また、事前準備や方法を工夫し、質を担保しながら学びの場となるよう努めた。昨年度見直した実習指導要項を活用し、実習指導者と学生双方の学習目標の共有を図った。

WGメンバーが企画に関わることで、より現場の状況に即した研修の企画・運営が可能となった。学生の学びの支援、学生と患者、学生と病棟スタッフとの調整、限られた実習時間の中で効率的に実習を進める点において、実習指導者の役割の重要性が増していることを再確認した。

臨地実習でしか学ぶことのできない看護があるということを十分理解した上で、変化する状況に柔軟に対応できる実習指導者の育成が必要である。今後も部署全体で臨地実習を受け入れる態勢を整え、実習指導者育成WGとして活動を継続していきたい。